

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400160		
法人名	ウェルエージング株式会社		
事業所名	グループホームせせらぎ		
所在地	栃木県佐野市栃本町3270番地		
自己評価作成日	平成25年 1月22日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、室内に閉じこもることもなく外出できるよう、食材の豆腐をお向かいの豆腐屋へ買い物する等散歩に出かけ、また外食や野外レクを取り入れ地域との交流を図っています。食事やおやつも手作りを基本とし出来るだけ地元の材料で行い、調理をしています。そして食事が出来るまでの音や匂いなどを楽しんで感じて頂けるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市北東部の閑静な住宅街の中にあり、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。食事を楽しんでもらうため食材は極力地元産を使い提供しており、おやつは手作りを基本にしている。事業所として、季節毎の外出や日常的な外出支援の充実を図ったり、地域の行事や体験学習等の受け入れなど地域との交流を深めていく取り組みがなされている。また、看取りについても「看取り指針」を策定し家族からの希望が出されれば対応できる体制である。運営推進会議には利用者家族全員に案内し意見等を聴くほか終了後「家族交流会」を開き、さらに家族の希望や意見、感じたことなどを聴く機会を設け、運営に反映させるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人個人を尊重し、オーダーメイドの介護」を基本理念とし、嬉しい時には共の喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う、そんな家庭的で暖かな介護が出来るよう、申し送り時に職員への声かけをして実践に向け日々努力しています。	基本理念は法人共通のもので、利用者一人ひとりに寄り添いながら安らぎをあたえる介護に努めている。管理者は週ごとに理念の基本的な考え方や掘り下げを行い理解を図りながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して町内会の行事に参加、また地域の神社の氏子として神社の行事にも参加している。お向かいのお豆腐や商店への買い物にもご入居者と出掛けたり交流を図っています。	自治会に加入し、地域の各種行事などにも参加している。地域の福祉まつりには全員が参加した。また、ホームとしても納涼祭や運動会を開催し模擬店を開くなど地域の方を招き交流している。日常的にも近くの店に買い物に出かける等、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や中学校の福祉教育における体験の場として協力、また職員が認知症サポーター養成受講し、何時でも地域の要請に対応出来るようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や意見交換会を通りしてサービスの向上に向け努力している。また、家族交流会の中で研修報告会を行っています。	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月に1回土曜日に開催している。自治会長、民生委員、市職員、利用者、家族全員、消防署員等が参加している。事業所側からの状況報告後意見交換が行われ、家族から要望等が出され、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加協力を頂き、現状に対する意見や情報交換しながら信頼関係を築いています。	毎回運営推進会議に参加され情報を提供をするほか、随時担当窓口等を訪問をしたり電話連絡を行うなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルや資料を参考に身体拘束のない介護の実践に努めています。	職員は研修会等を通して理解を図っているほか、毎週開くミーティングにおいても喚起を図っている。言葉づかいなども自分が言われて嫌だと感じられる言葉は用いないようにし、職員間においても注意し合い、ミーティングで話し合う事もしている。玄関などは施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等により、入居者様一人ひとりのその日の状態を把握し虐待防止を図り、管理者は職員の声かけ等に注意を払い言葉の暴力や虐待の防止を図っています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に利用者紹介の時等に状況により職員への制度説明したり、ご家族様には説明の他にパンフレット等もお渡しする事もあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に重要事項説明書について説明し、入居者様やご家族の疑問や不安についてお聞きし納得頂けるような説明をするように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し無記名での自由意見も受けられます。家族会はないが家族交流会を実施し要望や意見を伺うように努めます。	運営推進会議の案内を毎回家族全員にし、会議終了後家族交流会を開き、意見や要望を聞いている。外出希望や好きな食べ物といった個々の希望などが出されたりしている。また面会時などにも、ホームでの生活状況を報告しながら要望等を聞き運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングや日常のケアの場面などその都度、職員の意見を聞くようにしています。 運営に反映出来るように努力しています。	日常的にはその都度職員が意見を表せられるようにしている。また申し送りノートなども活用している。毎週開くミーティングでは日常のケアのあり方から職員の働きやすい環境づくりの話まで出され、食事や水回り、物の置き方といったものまであり提案改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・本社・会計士・5施設長の会議を実施し、研修や公休日等の職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を基本に、職員の状況に合わせて研修を受けてもらい、また管理者は積極的に研修情報を収集し受講してもらい、報告書を提出し振り返りによる成長を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との交流会等、ネットワーク作りやサービスの質の向上に努めています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の時に情報を収集しながら交流を図り、顔馴染みの関係を築き、ご本人の思いを大切に安心してGHでの生活移行出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談、面接時に当ホームを見学して頂き、ご家族が不安に思っている事や困っている事を伺い安心してご利用できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人状況や思いをふまえ他のサービスや利用方法や当ホーム利用導入方法について案を提示し選択出来るよう支援します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で調理や片付け、また洗濯や掃除といった家事の協力して頂き、お祭りや手作りおやつ等は職員も一緒に造り楽しみながら並んで食べさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族や知人の方や心地よく合える環境を設け、受診や外出等もご本人の状況を踏まえ管理者・職員が双方の意見を伺いながら、ご家族との絆を大切に保てるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みのあった方々との面会が心地よく出来る環境を心がけています。行きつけだった病院・店・美容院などの利用も積極的に支援しています。	利用者からの「馴染みの店へ行きたい」や「嗜好品を買いたい」といった要望は個別に支援しており、同じ要望の方がいる場合は小グループで支援している。利用者の知人が面会に来訪する場合の環境づくりに配慮している。また美容室は、月1回来てくれる出張サービスを希望する方が多くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの部屋に行き来したり、リビングで皆さんと過ごされる時間が大半です。ADL的に他の方のお世話が出来方については職員が安全を見守り支え合いを支援しています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への異動終了時等は皆さんからの寄せ書き等で見送り何時でも着て頂ける様、声かけしています。亡くなられた場合は葬儀等に参列、また新盆には社長と共に参る。神棚には名簿として祀り日々手を合わせています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員のふれあいにより一人一人の思いや意向の把握に努めている。自分から思いを話さない利用者様には入浴や部屋に居る時など職員との個別ケアで本人の言葉を傾聴する事で意向をくみ取り支援に努めています	利用者との日常の会話や表情、行動から思いや意向を汲み取っている。居室にいる時などを大切に、特に夜間は出やすいため、耳を傾け把握に努めている。家族からの要望や意見は本人に確認しながら支援をしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	起床や食事時間等は出来るだけご本人の生活習慣に合わせるようにします。レクは自由参加とし、ご本人の趣味活動継続に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り等に状態変化の把握に努め、それぞれの生活リズムで過ごせるようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミーティング等で職員の意見を聞くと共に家族の面会時などに意見や要望を伺い介護内容に反映させています。	日常的には毎日の関わりの中から意向等を把握し、月1回はモニタリングを行っている。計画の見直しは半年に1回行っている。会議は管理者と当日勤務している全職員が参加して支援見直しや注意点を話し合っている。状況の変化には、即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや伝達ノートを活用し入居者様の現状を把握するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院が必要となっても家族が来られない状況や、認知症の為職員の顔を忘れないように面会に行き洗濯物の交換や交流をしている。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加したり、ひとりの家庭の行事(法事等)にも参加できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は職員が同行して主治医に報告・相談している。家族が行く場合は普段の様子などを記録した物をお渡しして診察の参考にして頂いている。	これまでのかかりつけ医を利用している方が大部分である。受診時家族が同行する場合はホームでの生活状況を記したメモを渡している。結果については家族から聞いて支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化等を看護師に報告し、看護師が対応し必要であれば主治医に連絡を取り適切な受診が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院の看護師・相談員とサマリーの交換や面談により連携を図る。また入院中も面会にも行き看護スタッフとの情報交換する等、入退院がスムーズに出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りを希望され、「看取りの指針」を理解・同意を頂いた方には主治医を始めとする医療スタッフと連携を図り支援に取り組んでいます。	指針があり職員間においても共有化が図られている。かかりつけ医の協力などもありホームで対応したことがある。家族には説明を行い同意書をいただいている。今後も関係機関と連携を図りながら、また状況の変化に対応しながら取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ADE設置に伴う講習や普通救命講習を定期的を受講し、救命に必要な応急手当を見につけるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間も想定した訓練と契約消防商會に依頼し消火器使用訓練も実施している、その際非常用機器の使用方法も確認にしている。 また、警備会社との連絡も行っている。	年2回(夜間想定を含め)防災訓練を実施している、保守点検会社の指導で消火器の操作訓練も行っている。地域との協力関係については、非常災害時の連絡先に地元住民2名の協力を得ている。食料等の備蓄はある。	運営推進会議等を利用しながら地域との協力関係をさらに築き、訓練等への参加協力や具体的な協力関係を築くことを期待したい。

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態を理解し、入居者様の声を否定せず、傾聴・声かけを心かけ、排泄等の失敗体験をさせない為にも他の入居者様に気付かれないようなさり気ない排泄誘導に努めている。	目上の方をお世話させてもらっているとの気持ちを重視し、支援に取り組んでいる。声掛けなども利用者の様子を見ながら声掛けし、支援にあたっては状況を見ながら尊厳を損ねないように行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行う時には本人に説明し、意思確認をしながら支援しています。(レクや散歩等の参加含)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自分のペースで生活して頂けるように就寝・起床・朝食時間等も柔軟な支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1/月の出張理美容を利用したり、希望により外出時に化粧のお手伝いをします。また、希望でマニキュアの支援等もします。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の食材等を取り入れた家庭的な食事を心がけ台所には自由に出入りでき、その方の状態に応じて準備や片付けを行っています。入居者様の家族に頂いた野菜は直ぐに調理するようにしています。	献立は法人内の栄養士が利用者の希望などを取り入れながら立てている。調理はホームの調理士が個々の好みを見たりしながらアレンジして行っている。食材は近くの店やスーパー、道の駅へ利用者と一緒に行き購入している。頂いた野菜も使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎年後に摂取量の記録を行い摂取状況の把握に努め、また小まめに水分を摂って頂けるように飲水を始めコーヒー・日本茶他用意し、気分や好みで水分補給できるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状況に合わせ嗽や歯磨きの支援をし、職員は確認表にチェックしています。		

グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌に排泄状況を記録することで排泄パターンを把握し、出来るだけ失敗体験をしない様にトイレ誘導を心がけています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、こまめに声かけを行い、トイレ誘導に努めている。夜間においては、こまめに声かけ(2時間おき)をする方、見守りをする方と利用者に合わせて支援をしている。本人にあわせて検討し、オムツやポータブルトイレを使用するなど、トイレでの排泄の自立にむけた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩で身体を動かすようにしたり、朝は牛乳や飲むヨーグルト、また食事やおやつに芋、バナナやかんてん等を取り入れ水分補給と共に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施し、その方のタイミングを図り入浴して頂いたり、希望を取り入れている。入浴剤も多種取り揃え香りや色を楽しんで頂いています。	毎日入浴が可能である、希望に応じて毎日4～5名が利用している。拒否傾向の方も言葉かけに配慮しながら支援している。また、併設の小規模多機能型居宅介護施設内の機械浴・温泉浴を楽しむなど工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々気分や体調で休憩できるよう支援している。眠れない時等は会話や趣味活動またお好きな飲み物等を提供し心地よく眠りを誘えるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書をファイルしてあり確認できるようにしている。職員が内服確認表を作成しチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除洗濯や食事の片付け等、無理なくできる事を支援したり音楽や手芸などお好きな事が出来るよう支援しています。場合によっては飲酒の相談も受けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調をみながら近隣への散歩やお向かいの豆腐屋さんへの買い物をしたり、野外レクを支援しています。隣接している小規模多機能と合同レクや誕生日会を開催して利用者に楽しんで頂いています。	日常的な近隣への散歩や買い物に出かけている。また、季節に合わせて公園へ行きレクリエーションを行ったり地域の祭りに参加したりしている。さらに、道の駅レストランで外食を楽しんだり、スーパーにも出かけている。	



グループホームせせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理を希望されている方は小額を小持され管理している。殆どの方はご家族より小口現金を預かり、外出時等に自分で買う楽しみを感じて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は取り次ぎの形になっていますが状況を見ながら自由に、また手紙など郵便も出し入れも自由で出来る様にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入り口でお香を焚いたり、リビングは皆さんが思い思いに過ごせる空間を用意し、調理に参加したり出来るまでの音や匂いを感じられるように努めています。	共用空間はゆったりとしたスペースがある。リビングルームには畳の間もあり、中庭に面して明るいつくりになっている。季節感なども得られ、くつろぎが得られるスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングからはベランダから中庭への出入りでき、また畳スペースや、台所にも椅子を置き思い思いに過ごせる空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は消防法により防災カーテンとし、清潔の為に洗面台・エアコンの外は入居者様の馴染みのある家具や生活用品を持ってきて頂いています。	居室には洗面台やエアコン、防災カーテンが備え付けられている。利用者は入居前に家庭で使用していた物やテレビ、仏壇、遺影等持ち込み、ベッドは一部レンタルの方もいるが、本人が生活しやすい配置に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った福祉用具の活用や、トイレ・風呂場・廊下などには手すりを設置して安全に配慮しています。		